

明治学院大学心理学部付属研究所主催

2017年度「研究・実務のための心理データ解析研修会」

Rを用いた テスト理論の 実践

本研修会では、能力や態度、性格といった心理特性の測定を意図した“テスト”の開発に不可欠なデータ解析技術について、統計解析環境「R」を用いた実践的解説を行います。心理尺度構成や大規模テスト開発の実務・研究経験をもつ6名の講師が、データハンドリング、探索的・検証的因子分析、項目分析、項目反応理論(IRT)、IRTにおける等化、IRTによるテスト開発・運営についてそれぞれ入門レベルから、応用レベルへと段階的に解説します。

主催 明治学院大学心理学部付属研究所

会場 明治学院大学白金校舎本館北2階1255教室
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
交通アクセス：<http://www.meijigakuin.ac.jp/access/>

定員 50名

参加条件 裏面「参加条件詳細」をご参照の上、お申し込みください。

申込方法 下記のお申込みフォームに、**6月16日(金)**までにお申込みください。
必要事項をご入力の上、

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/ac19004e510321>

参加費 一般：10,000円、大学院生：5,000円、学部生：3,000円。

(全6回分) お申し込み確定後に、受講票とともに郵送するゆうちょ銀行の払込取扱票にて、

6月30日(金)までに参加費のお振込みをお願い致します。

誠に恐れ入りますが、手数料は各自ご負担ください。

尚、入金後の返金は致しかねますので、ご了承ください。

また、全6回分まとめてのお支払いのみ取り扱っております。

お問い合わせ 明治学院大学心理学部付属研究所

Tel: 03-5421-5445 (受付時間: 10:00-16:00)

Email: ipr@psy.meijigakuin.ac.jp (担当: 心理学科 川端一光准教授)

7月8日 15:30～20:30
(受付15:00～)

第1回
『テストデータ分析とRの基本関数』

講師: 川端一光 明治学院大学心理学部准教授

第2回
『探索的因子分析と検証的因子分析』

講師: 久保沙織 早稲田大学
グローバルエデュケーションセンター助教

10月14日 13:00～18:00
(受付12:30～)

第3回
『古典的テスト理論による項目分析と
Rを用いたグラフ資料の作成』

講師: 山野井真児 株式会社教育測定研究所研究員

第4回
『項目反応理論の基礎』

講師: 加藤健太郎 ベネッセ教育総合研究所主任研究員

11月18日 13:00～18:00
(受付12:30～)

第5回
『等化』

講師: 光永悠彦 島根大学教育・
学生支援機構教育推進センター

第6回
『項目反応理論に基づいた
テスト開発と運用』

講師: 野澤雄樹 ベネッセ教育総合研究所研究員

講義内容詳細

第1回

『テストデータ分析とRの基本関数』

内容: 本研修会に関するイントロダクション。テストデータ分析に求められるR言語の文法的基礎と、データハンドリングの手法について、データ例をもとに解説する。

講師: 川端一光 明治学院大学心理学部准教授 博士(文学)

略歴: 早稲田大学にて学位取得後、独立行政法人国際交流基金日本語試験センターにて、年間50万人が受験する「日本語能力試験」の実務テストデータ分析に携わる。代表的著書は「Rによる項目反応理論」(共著、2014、オーム社)。

第2回

『探索的因子分析と検証的因子分析』

内容: テストによって測定を試みる対象は、多くの場合構成概念である。構成概念を測定するための統計モデルとして、尺度構成においてもよく利用される因子分析モデルを取り上げ、分析実習を通して丁寧に解説する。

講師: 久保沙織 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター助教 博士(文学)

略歴: 早稲田大学教育総合科学学術院助手を経て現職。早稲田大学にて教鞭を執るほか、非常勤講師としては社会調査士認定科目も担当している。項目反応理論に関する専門書の分担執筆の経験を有する。代表的な著書は「項目反応理論【中級編】」(分担執筆、2013、朝倉書店)。

第3回

『古典的テスト理論による項目分析とRを用いたグラフ資料の作成』

内容: テストデータの基礎分析の演習として、通過率や識別力等の項目統計量の算出や、G-P分析のグラフ描写を行う。誤りなく有益な情報を提供するために、どのような点に着目して分析するとよいかを、実務上の知見を交えて解説する。

講師: 山野井真児 株式会社教育測定研究所研究員 修士(教育学)

略歴: 岡山大学にて学位取得後、株式会社教育測定研究所でコンピュータ適応型テスト「CASEC」をはじめとする英語テストデータの分析に携わる。これまでの研究では、大問形式を含むテストに対する項目反応理論の適用をテーマにし、モデルの比較検討を行っている。

第4回

『項目反応理論の基礎』

内容: 大規模テストを支える標準的な測定理論となりつつある項目反応理論について、基本的な考え方を説明する。また、データ例を用いて、パラメタの推定やグラフ描画の演習を行う。

講師: 加藤健太郎 ベネッセ教育総合研究所主任研究員 博士(教育心理学)

略歴: ミネソタ大学教育心理学科博士課程修了。2009年よりベネッセ教育総合研究所研究員。専門は、アセスメントの開発・運用において用いられる様々な統計的・数理的手法、特に項目反応理論に関連する心理測定学的手法の開発。代表的著書は「Rによる項目反応理論」(共著、2014、オーム社)。

第5回

『等化』

内容: 異なる受験者集団から得られたテストのデータを手がかりに、受験者集団間で共通の意味をもつ尺度に変換する操作を「等化」とよぶ。標準化テストの実施に必須な等化の概念について、実データ分析を交えながら解説する。

講師: 光永悠彦 島根大学教育・学生支援機構教育推進センター 講師 博士(学術)

略歴: 東京工業大学にて学位取得。その後、人事院人材局試験専門官室などを経て現職。さまざまな標準化テストにおいて、実施手法の立案・開発に携わる傍ら、標準化テストの実施手法を改善するための理論的研究も行っている。代表的著書として「テストは何を測るのか」(ナカニシヤ出版)がある。

第6回

『項目反応理論に基づいたテスト開発と運用』

内容: 前半では、項目反応理論に基づいてテストを開発・運用する際に必要となるデータ分析の基本的な流れと、ミスを防ぐための品質管理(Quality Control, QC)の重要性について解説する。後半では、データ例を用いて品質管理の演習を行い、その有効性と限界について学習する。

講師: 野澤雄樹 ベネッセ教育総合研究所研究員 Ph.D.

略歴: アイオワ大学大学院教育学研究科博士課程修了。専門は教育測定学。米国のテスト団体であるACT, Inc.の研究員を経て現職。英語検定試験GTECの各種オペレーションおよび中長期的な研究開発を担当。主な研究分野は、尺度設定と等化、適応型テストの開発、記述・論述テストの開発など。

参加条件詳細

1. R言語(ver3.3.1以上)がインストールされたノートパソコンを持参できる方
※Windows OSを推奨します。
2. 記述統計・推測統計の基礎について学習済みの方
3. R言語の基礎知識をお持ちの方
※Rについて初心者の方は、村井潤一郎「はじめてのR: ごく初歩の操作から統計解析の導入まで」[2013、北大路書房]によって、Rの導入並びに、基本操作について習得してください。
4. その他: 講義は日本語で行います。また、講義時間に限りがあるため、講義・実習中はコンピュータ操作やRの基礎的事項、エラーの対処法などに関する個別の質問には対応することができません。あらかじめご了承ください。